

明治十三年帰朝の始末

明治十年六月ポストン大学法学部の課を卒たれハ今年一年同校ニ
通ひ猶上等の課目を学び兼て既に修めたる諸課の復習をもし
十一年の夏よりエギリス国に転学し度旨文部省に願たれ共聞届
られず扱ハ一人に転学を許す時ハ他人も亦彼地此地に移たしと
云を聞届ねは成らず左れハ路費手当等にて多分の入費立事故夫
を恐れて斯は返答したるかヤと思し儘又押返して文部省に云立た
る趣ハ約束なれハ十一年の夏より滿二ヶ年の間ハ留学致さるゝ
事勿論なれ共英国に転学さへ許さるゝならば後の半ヶ年を切縮

此分ハ内証の事なり

め一ヶ年半となし其半ヶ年分の学資を繰替転学の路費に充被下
は別段に路用金迎拜借ハ致ましくとなり扱英国に移り行時ハ路
費のミならず其他の入用もあり且教科も米国よりハ貴き由なれ
ハ何分儉約をセねは叶はぬ仕義と考先少し宛なり共金を溜る事
に内決したり去任文部省よりハ重て願意聞濟なり難旨翌年申来
り歐羅巴行の素志も空く成果たる姿にてハと樂しからず暮しけ
り左ハあれ共折角始めたる儉約の旨を打捨てハ帰朝の硯書物杯
買ふ事も叶ぬ次第に立至るヤも測られねは打統て金を溜る心組
にハありし始の程ハ只通り一返見物の為ならば余計の費を掛歐
羅巴に行んよりハ寧しる其金にて書籍を一冊なりとも多く求め
は然ならんと思居しか追々彼地より戻たるアメリカ友人の話を
聞ハ彼地見物迎も左のミ費用の多ものならぬ由なれハ憐れ彼地
を経て帰国セはヤと考直したり斯る処に日本より新来の人ヤ英
京ロンドン府に留学せる友人河上杯ハ頻に英国に路取して帰れ
迎勧めけれハ遂に其義に決定セシハ(抹消)米国出立前凡一年程
なりし然るに文部省より渡るへき路費金にてハ迎も足へくも思
はれねは幾位不足なるかハつと宛と知ねは河上に申遣り日本より英
国に渡る路用を尋たるに四百三十弗前後なる由なれハ右に米國
より英国に渡る路用を加へ都合五百十弗前後ならハ免に角日本
迄乗着へき算筭なり扱文部省より渡るへき路費金を推算するに
三百五十費極々にて四百弗ならてハ送金あるまし左れハ未た百
弗余の不足あり之を補ふものハ七月と八月半月分の学資より外
になき故右学資金と路費を一度に請受期限前なれ共六年未か七
月初めに立出するに若す帰朝の上ハ小言を云るゝならんか帰た

以上ハ文部省にて彼是云た迎祭りの済た跡なれハ仕方もあるまいと思立て居る中聽て文部省より送りたる路用金并学資金なり迎ニ一ヨルク府日本領事館より届たる金高を見れハ存外多く彼是にて六百九弗余なる故嬉しさ限りなく此外二年の間苦て溜た金も些少なから所持すれハ先歐羅巴行ハ全仕逐らるゝ有様と成行たり然るに長の旅一人にてハ徒然ならん道連もかふと思たりしに同連八人の中五人は矢張彼地を経て帰国の見込なりと聞えけるにそ是も安堵なれハ直様出立センと思の外片付ぬ用事杯ありて遂に七月中旬とハ成にけり扱米國より英國に渡る蒸氣船会社ハ数々あり船賃にも百弗以下種々あれハ彼是と聞糺し竟にスコットランド國のグラスゴー府通の船に中等の客となりて乗組事に取極め六十弗にて船切手を買求めロンドン着日より日本迄の諸入費充にて五百弗計りを英貨百ポンドに直し右をロンドンの一銀行宛の為替切手にて所持し此外遣残りの米札を英貨に換たる七ポンド余の正金を合て都合百七ポンド余（米金の五百三拾五弗位に当る）の路用を拵らい七月十七日出帆の船にて米國を發する事に決定したり

七月十六日となりけれハ荷物を造り荷物運送会社に托して鐵道ステーションニ送前日買置し車切手船切手を所持し見送の内外國人に連て午後六時頃宿所を立出除く鐵道指て歩み行途上眼に触耳に觸るもの総て見取聞収なれハ心を止て見聞セリ他郷とハいへ流石五年の月日を送たる場所なれハ離るゝに臨んで快からす思ふそ人情なれ但しは是か生涯の別れなるヤも測られずと思へハいと胸曇り連の人か可笑敷話をしても得も笑はれ

ぬ心の有様なりしか去迎強ふ悲しくもなかりし故ハ考ふれハ成程此府の見納とも成へき場合なれ共何分にも左右ハ思はれず例年の通り避暑に出掛る如くのミ見えけるハ畢竟歐羅巴エ渡迎左程の旅とも思はぬ為か何しろ勇ましくハあらね共悲しいと云程にもあらず得も云れぬ心持なりし聽て七時となりけれハ笛の音相図に車ハ「オールド・コロネー」会社の停車場を發したり思廻セナン五年前明治八年八月中旬に今行く道を通りてポストン府に着けるか今日は又此道に因て同府を離る彼時ハ見馴ぬ所に来り此度ハ住馴し土地を去り前後の情ハ変れ共去も就も同じ道に出るとハ亦可笑敷事共なり此道中の模様ハ兼て申上たれハ爰に委くハ記さす九時頃に隣州のニー。ポルト府に着車し直様ニー。ヨルク通の夜船に乗込寝ながらニー。ヨルク府に赴たりニー。ポルトにて積荷の不斷より多かりし故出帆は定刻より一時間余後れたれハニー。ヨルク着も随て後れ翌十七日朝九時半頃漸々着船し直様グラスゴー通蒸氣船会社なるアンコアと云ふ会社所持の二十番波止場に赴んと手提をは小僧を雇て夫に持せつゝ往見たれハ未だ乗船はさせずと云ふにそ夫ならハ手荷物を預り呉ると頼たれ共免ヤ角と安請合をせねハヌも小僧を伴て架空とも名付へき鐵道のステーションに到り蒸氣車にて友人の許に尋行たり右に架空鐵道と云るは二階の高さ位の土台柱を三四間宛離して幾本となく築立上に何寸角とも云ふへき財木を両通りに据其間にハ地上の鐵道同様に丈夫な枕木を横に布並へ夫所に架たる鐵道にて府の片端より片端まで縦横に五六節も通てあるなり此鐵道ハ人道に傍て街の両側に掛りて片側ハ上り車片側ハ下り

車と分ちあれハ譬は下町に往者は東側のステーションに登り上町に赴者ハ西側より登りて乗車するか如しステーションは二三町より四五町置て場所柄に依り遠近の差あれ共何れも鉄道と同じ高さにて客は梯子に依て登り降をするなり列車の往来は五分置十分置位にて朝晩ヤ昼近にハ自ら人の往来繁けれハ車の往来も間近し直段ハ遠位に依て変らす一町乗ても十丁乗ても十銭なれ共朝夕ハ場末の安長屋に住日雇職人類の者共か往来する故半直段にて客を乗するハ心深き仕打と云へし此鉄道の下に矢張鉄道馬車ヤ其他の馬車か通行する故詰り同し所に二筋の路あるなり初の程ハ鉄道通りの家持地主共か殊の外に不同意を唱しけるか出来て見れハ左のミ喧敷事もなく思の外邪魔にも成らぬ上便利なれハ地代家賃にも障なく小言も泣寝入の姿となり行けり却説友人の許にハ兼て同行を約したる南部氏も待合せ居一週間前に歐羅巴より戻たる長谷川氏も居合せたれハ彼地の様子を聞に先宿屋に着たらは部屋に直段付をしたる書付を見其中にて宜程の直段の部屋を撰へし宿屋も色々あるかテンペランス。ホテル迎酒を吞せぬものあり此類の宿屋ハ慥なり鉄道の旅にハ能我荷物に気を付無難に積卸をする様心を用ゆへし着の時ハ早速ステーションに居荷運者を引連荷車を往我荷物を指示して運はするを肝腎とす杯語りき英国にハ米国の如き良煙草なく偶ありても余程高価なる所故煙草を多分に買込又道中用にブランドー酒を仕込杯して見送人と一同復もヤ二十番波止場に至り荷物にグラスゴー行と云ふ札を張せて船に積入させ自分共も乗船し部室を見たるに存外結構なれハ不思議と思しに成程良筈た六十弗の部

屋ハ売切た為七拾五弗の部屋を授られたる由小使より聞て儲の幸と大悦したり友人か寄留する家の妻君も来り美事な花束を呉たり是そ誠の贖とやら云ふへけん午後一時に成たれハ今度ハ船の鼻向か始り引舟に率れて徐々波止場を出掛たるか諸客の見送人ハ波止場に群立帽子ヤ手拭を振舞し船中にも之に応して同く帽子ヤ手拭を振り互に願の見ゆる問ハ斯して愛度旅立を祝ひ且別を惜むの情を表したり追々遠さかるに随ひ郵便局ヤトリブユン新聞社ヤ請合会社ヤトリニター寺杯高き建屋ハ目立出し流石百万余の人口あるニ。ヨルク府丈ありて人家稠密し之を望めハ大想な煉瓦の塊の如し当港の良事ハ兼て噂に聞つれと此度親く就て見れハ成程無双の港と思はる府の向ハ島にて荒海を遮り港の形ハ丁度鍵の如く凶形なれハ風濤の恐れハ四方ヤあるまし港の出口に近けハ水幅狭く兩岸にハ炮台を築立防禦の便りとす港を出る頃ハ左にコーネー。アイランドヤマンハタン。ピーイチ迎名高き避暑島見え(抹酒)三時半にはサンデー。ポイントと云ふ所に通り掛けるに港の水先とやら按針役か船を船將に渡して帰りに行けり港の出入にハ是非其地の水先を傳はねは成ぬ筈にて此案内者ハ一返に五十弗位水先料を取由なり此所より船の進退ハ其船將の手に還り里数も爰より算ひ始ると云ふナッシュナル社のスペイン丸及ひインマン社のシテン。オブ。ペルン丸ハ跡より追来りしか英國リバプール行なれハ別路を取て進行たりシター。オブ。ベルリン丸(ベルリンはプロシアの京にてシターは府名の付方なり)ハ我等の乗込たるエスラピア丸より少々大きくて五千四百九十一トン積と聞えけりエスオピヤ丸ハ細長き船にて五年前

アメリカ行の節乗たるシテ。オプ。ペキン丸(北京丸)に較れハ誠に小さなものなれ共船將以下水夫に至迄尽くスコットランド人の航海に練たる者にて会社の持船中一番人数組の善船なり迎ニ。ヨルクの判事某語れり出立前ハ此船悪し迎種々の故障云ふ人多く中にハ迎も安心ならぬ腐船なれハ決て乗込など云云ふ者ありしかと乗合の人より聞ても自ら見ても更に悪い船共見えねハ大に安心セリ甲板より下り部屋に往んとしたるに梯子段の突当りに郵便と記した木綿袋を見出しポストンに云忘たる事ありたれハ幸手紙を認て袋に入たり但し此辺より戻り船に托して送るならん此時黒鬚の生たる人不図出逢頭らに「貴公ハ日本よりお出成されたか」と問故然りと答けれハ「自分はバーネツト云ふ者て五座る」と名乗りて往成左の如く話し出たり「我等ハキリスト教(クリスチヤン)なるを以て我等の国ハ富強にもあり文明にもあるなり我等ハ無二の正道を信す貴国の文明開化ハ米國ヤ英國と同じ度に進まぬハ畢竟未だキリスト教が貴国の徳道を補正せぬ為て五座る夫所て貴公に望所ハ外ならずキリスト教ハ天下の正教にて国々の文明富強なるは此教を信仰するからの事と云ふ考を国の土産に持帰られよとの事て五座る」と延統と喃舌り漸々吐切けれハ「自愧るにも程かあらうに夫ハ余り我儘勝手な御了見て五座らふ」と云んとしたれ共待たゞ此奴ハ坊主に違ない坊主に此様な事を云掛られるハ此か始めてもなし何時も論し合て詰た事なけれハ早く振離すに若ハなしと思ひ「ハハハ左様て五座るか」と云捨て別れたり一体信仰の事ハ大切なるものにて且は人の内心に係るものなれハ仮初の談話の種となす可管なけ

れ坊主等ハ全くの無学文盲でもない癖に何分此訳を腹に入兼るて見ゆ(見ゆ)諭は権助ハ無地識すの太郎兵衛に初面会の砌太郎兵衛か何程の学問あるかも知らず何様した人柄かも心得すに往成世界ハ丸いものた其訳ハス様／＼と弁するとせんに太郎兵衛か物識者なるに於てハ勿論良世界の円きを知ぬにセよ権助の振舞を無礼と怒る或は根氣の仕業迎笑ふならん去共此ハ人の智識に管りたる事にて太郎兵衛か世界の平たきものと考居たるを権助か円いと云ふた迎左のミ氣に掛すに済される事なれ共猶前の如く無礼なりと怒るも無理ならず況んや信仰向に渡りたる事に於てや太郎兵衛か何宗旨の信仰者なるヤも知すに禅宗の貴きを述へ一向宗を邪教たと云へ日蓮上人か馬鹿と罵らんにもし太郎兵衛か一向宗の信者なるに於てハ腹の立事如何計か測られず又禅宗の教を能字たる人ならば権助ハ入さる口を叩て笑を招くへし去をアメリカ人の癖にて識ぬ人に逢は先宗旨の話を仕出し「那方ハ何寺にお出成さるか」杯問ふ風なるか別ても坊主共ハ何分我宗に導んとするより煩く説法ケ間敷話をなす亜細亜人をハ素より邪宗門の信者と極て置故日本人杯を見ると此奴も邪宗門の一人なり何てもキリスト教の難有を云聞セ此奴を正教に説入て一功名を立んもの杯思て殊の外憂るさく法談を仕掛孔子の教ハ人と人との交りの道を説たるにて人と神との突合をハ構はぬハ右をも宗旨と心得孔子の道も仏教も皆邪教なり杯云ふ故夫なら孔子か何様な事を教釈(くわく)伽か如何なる事を説たかと問は素より論語の論の字も知す南無阿弥陀の南の字も聞た事なき者共故一言の返答も出来はこそ辞を変てキリスト教は無二の正教た正教たと

云ふ者概ね是なり夫共坊主なら暇の時にハ相手にして馬鹿口を叩くも面白いか婆さま杯から説付られたら荒い事も云わす信切を無にすると思はしても済ぬ故実に閉口極る次第にてアメリカ滞留中にハ随分入り切た事数々ありき後にハ逃路を工夫し出し其様な六ヶ敷話か始りそふな時ハ十方もない於道化した事を云ひ気障なしに呆れさする様にしたれハ夫にて大きに宜りし却説午後五時に成たれハ昼飯か始りたり馳走ハ彼シテ。オプ。ペキン丸に比ふれハ余程劣りて先ボストンやニー。ヨルク辺の大きな寄宿屋の料理位に当れり連の南部ハ少し船に酔たる様子にて何を食ふても腹に落付そふない連一口も食すに退きたれは鄰に座り居たるボストンの若男ハ「彼人の食兼るハ無理でない」と云ふ顔を見れハ色は青さめ掛て僅宛恐そふに物を食居けり去共海は極穩にて涼き風ハそよ／＼吹来り誠に心地よく覺けり凡船に酔た人ハ何ても甘い物を食ぬ様子なれ共酸い物か口ニ合ふと見えレモンを食ふ人追々あり殊に婦人中に多く見えし八時にハ晩飯にて此時ハ最早南部も焼たパン位食ふ様に成けり日の入か殊に好暫して満月に近き月出て影を海に映し金波を生せしめたり船の中ハ静まりて音もなく波も穩なる夜さやけき月を見る位心の清む事ハ凡そある間敷思ハる十時頃より上羽織なしにハ涼し過る位になり十一時少し過に寢床に就けり此日ハ同船人の中七人と知合になりたるにコンスタンチノープル(土耳其ノ京ナリ)ニ教師となりし行者ありゼルマンに語学稽古の為渡る者ありスコットランドの医学校に修業の為乗たる人ありエギリスに帰るもあり歐羅巴遊覽するもあり種々雑多なり

十八日の朝八時少し前に起て見れハガラスの燂酒德利に似た入物に飲水の有計り外に水連ハ無れハ小使を呼寄んとエレキ掛の鈴を鳴せと／＼応る者なく止を得ず親ら風呂場に往き顔を洗居たる中に小使か見えけるにそ何故召に應せぬか何故水を部屋に貯置ぬ欵と問たるに鈴は偶合損して用に立す水ハ部屋の手台の下なる戸棚に備置由小使の答に随ひ戻りて見れハ成程戸棚の中に然も太分大きなブリキの水入ありたり此水入は赤黒く塗てある故部屋の薄暗かりに鳥渡夫とハ見えざりしなり八時にハ朝飯を食けるにスコットランドの名産からし麦(原語オ)とか訳する物ハ殊の外味美りし煮る時ハ麦より舐り気多く塩に牛酪或ハ砂糖を掛て食るハ頗る美味にて殊に滋養になる物と云ふ甲板に登りたるに賑やかな顔をした小作りの男か此方を見て莞爾／＼し居るにて此地も思はず笑みたれハ「今朝は」と話し掛られ追々語り合中ボストンにて法律を学たる事を云聞せたれハ「夫ハ自分の職業て五座る」連夫より自分ハニウー。ヨルク府宰判所の判事にて姓をハゲドネーと云ふ申告たるにそ此方も名乗りて又も四方山の話に成ける時判事の云く「一体船中には坊主か多過ます昨日も彼バーネット和尚ハ何か降らぬ事を其方に申す所を見掛ましたか坊主等ハ多少教育を受た人々て有乍ら何様して彼程或て見識か狭く礼義も知ぬ欵自分にハ一向合点か往ません此前自分かスコットランドに渡る時分も坊主共ハ彼是と憂るさく無作法な云掛をする故若連中ハ入り切り之を禦せんか為に連中一組となり何分坊主等と突合ぬ様に仕ました夫に付可笑敷話か五座る一日若者共か寄合誰か一人を懺悔人に仕立人と評定し

て其中の一番無敵な奴を御供具に撰たりしか此撰に当りたる奴ハ或坊主の法談を聞し上深く既往の不身持を悔將來ハ務て行状を改ん由を語りけれハ坊主ハ素より彼者の言葉を真に受大悦の余り神の保護を乞て彼の改心を固くせん為法会を催す事に決し愈法会の夜となりけれハ坊方ハ衆人を呼集め彼者か優敷も懺悔したるハ誠ニ感心の至りにて他人も斯有たし杯普揚け夫に付彼者か愈良心を守る様祈禱する旨を云述る拍子彼懺悔人ハ泥／＼に酔たる儘立揚り何か取留もなき事を廻兼る舌にて喃舌り出しけれハ坊主の驚天ヤ間の悪き云人計もなかりしか其後ハ人に法談をし懸る事をは絶てなき様なりた事か五座つた」杯話す中「アレ／＼饜か来る／＼」と人々騒ぎ立故海の面を見渡セは成程二重の鰭を水上に押立つ／＼幾尾ともなく船近く泳き居其鰭に日の映ると丁度金の如く輝きけり饜か船に向て来れハ何事ないか船を追て泳時ハ船中に病死溺死する人あるの兆なり連水夫等ハ深く忌由なり此外大鯨や鯨魚も見えしと人々語り合り此日ハ日曜日にてありける故彼バーネット坊主ハ頻に説教をしたかり法会を催すか同意欵迎乗客の中を聞廻たる上船の役人に対ひ自分ハ法談をして宣きやと問たれば船將の許しを得迄ハ扣へしと云れ今度ハ船の医者に向ひ船中にてハ日曜日に説法ありやと尋けるに医者答て「知る／＼通り船に酔人多ある故左右始終ハ遣りません」と取合れねハ遂に船將に談し其免許を得しものと見え十一時頃にオルガン(樂器)の音や神歌の謡声聞えけり此時少く霧降けれ共間もなく晴渡り十二時にハ法会も了りけるにそ部屋に下りて髪なと櫛り食堂に就支度をなさんとしたるに今迄


説法所に用し楽室兼帯の書院側に張出ありけれハ何事やらんと立留り見るにグラゴー通の船路を示したる地図にて正午に此船の居し場所をも印しありそれを見れば西經六十八度卅七分北緯四十度五十分にて丁度ポストン港の奥に当り昨日午後三十五分より今正午迄に經し里数は二百四十六マイルなりき初め乗船の節諸客に分ち与たる折手本二冊あり一冊ハ乗合の客名を記したるものにて一冊ハ今日張出したる如き略図に經緯度ヤ里数を書留る為の野引白紙を付たるものなれハ此折手本に張出書を写し取聴て食事となりたれ空腹を抱て往見たるに冷度肉に鑊詰(つづ)の菓物を供へしのみ此食事ハ時刻より云は昼飯なれ共只三時の昼飯迄空腹を凌かする為のものにて申さは鳥渡一杯引掛る茶漬飯なり夫より人々多くハ本を讀始め時々饜や船の見えると少く騒ぎ立限り船中ハ最静なりしか船の役人二三人寄来り話を始めたり此者共は色々の人と突合故面白き談も多く聞知居れハ退屈凌に屈強の相手にて此時も種々話したる中左の一段を聞覚たる儘記すスコットランド国にバーヤードと云ふ金満家あり至て徳実なる質にて自分所持の石炭杭より儲たる金の中五十万ポンド即ち二百五十万弗を其国の或寺に寄附し其外貧乏人を恵し事数々ありけり去共此人ハ亦余程の無学にてありけり或時本を綴(つづ)させんと本屋に至りけるか西洋の蓋紙ハ厚紙の上に木綿類ヤ革を張付て拵るものにて羊の革やら何やら革にも色々の種類ある事なれハ本屋の番頭出来り綴方如何致さんかモロコに仕ふ欵と尋けるに先生モロコトハ亜弗利加国の地名なる事をは知たるか革の一種たる事は存せさりしかは番頭の言葉に依り頸を捻り扱は綴方

にも国々の風ありて斯る名を付るならんと心得「いや／＼拙者ハ外国綴は総て嫌だから拙者の本ハ尽くスコットランドにして呉」と云けるとそ是ハ丁度郡山人か東京の蕎麦屋に往き花巻とやら盛とやらあるを見て蕎麦ハ何に致さんと間に依り郡山を呉と云たる話と団体なり陸なれハ日曜日の昼飯に平日より甘き物を食はずれ共船中にてハ別段の馳走もなかりし八時にハ又食堂に至り晩飯を食たり晩飯ハ四食中尤も粗末なるものにてパンとバタと寒天様なる品に茶かコップ（豆茶と誤する品）のミなり乗客中ハ初渡りの人多く熟れも往先道中の様子を承知し度思ふより折に触事に触案内な者に問尋る事なるか此夜もスコットランド人を執まい色々と問掛たれハ彼人左の如く話したりグラスゴー府にハ船路にても陸路にても往るゝか潮の都合に依グリーンノックと云ふ所にて客を上陸させ蒸気車にてグラスゴーに送り遣る事ありグリスノックよりグラスゴー迄は陸路三十五マイル（イルマ十四）ありて蒸気車なれハ四十分にて行着へしグラスゴーはセント。イノックのステーションにて車を下り夫所より同府一番と云ふへき旅籠屋ウエーバレー。ホテル迄ハ僅の距離にて馬車なれハ五十錢（英貨ニシ）又は乗合馬車なれハ二錢（英貨ニ）にて往着るゝ同府よりエデンデラ府に往て見物するか宜いエデンバラよりハ毎晩十時に極駄い車か出立翌朝四時少し過にはロンドン府に着へし杯云ふを聞居中夜ハ深行上衣なしにハ凌れぬ程冷来るにそいさ寝床に就んと甲板を下る折ハ早ヤ時鐘ハ六を撞「何事も無い」と呼知らず夜番の声もいと高く聞え寝床に就間もなく小使廻り来り部屋／＼の火を消しけり船中の時の数へ方ハ陸と違

ひ十二時間を三に割半時間毎に鐘を鳴す先十二時を零とし十二時半に一つ打ち一時に二つ一時半にハ三つと云ふ割合にて四時にハ八つ打ち爰にて一切となり又四時半にハ一つ五時にハ二つと鳴らし行ハ時にて復一切となり其次ハ十二時にて一切となり此一切毎に水夫を始め入替りて物見番ヤ其外の役々を勤ると見ゆ甲板を下る時六を打たるハ十一時との為知なりし十九日□朝起たる時ハ天気晴渡りしかと直に霧空と成行けり一体北アメリカ英領の海岸ハ霧深く度々往來の船に過ちある難所此度ハ如何なるものやと昨日船將に尋けれハ船將答て風今少し強く吹時ハ霧を免るゝならんと云しか吹けりしと見得遂に霧の中に這入たり昨日ハ日曜日故遊芸類ハ一切為さず終日読たり話したりした上りなれハ何か変りて然も体の運動になる菜みもかなと諸人相談したるに彼判事ゲドネー氏仕方ありとて船の役人に談し厚さ五分位のお備餅形な木切を八つに三尺余の長さにて先の半月形な棒四本を借出し又甲板に図の如く白粉にて書印したり



此を遊ぶにハ四人各棒一本に木切ニ宛所持す二人宛組合となり敵味方互に入替て右木切を棒にて彼棒中に押入るなり人と棒の距離ハ遊人の極次第なれ共力一杯に突遣て木切か程能棒に届く度をよしとす木切を押には棒を右の手に握り左足を一步前に踏出す拍子に腕の力限り（但シ度の遠近に依力の入方に軽重あるへし）突出すなれハ木切ハ

板の上を滑り行て棹の中に入る仲間にて最初百とか二百とか数を極置先右数を得る者ハ勝木切か八に入れハ八つ数五に入れハ五つを加算し十を加ふの所あれ八十を加下の半月棹に入れ八十を減す縦横の筋に掛りたる分ハ数へす扱甲ハ八と九に木切を入たるとせんに其敵なる乙ハ自分の木切にて甲を八と九より押出すを得丙は又其對手なる乙の木切を追除け及時ハ甲の木切を何かに戻し入自分も好場に落着様にするを得丁も同く味方の乙を扶け敵方なる甲丙を突除るを目当とす斯して両方の中央に百とか二百とかの数を得たる方ハ勝利を得なり棒ヤ木切を用すして米搗の杵に当る繩輪の如糸繩にて拵たる輪を彼棹中に投入ても亦一法なり又輪投と云ふ遊も始りたり此は  形にて丁度

身の短かき蠟燭台の如き台を据置前に凍たる繩輪を投て心棒に当るにて鳥渡考れハ事安き様に見ゆれ共中々六ヶ敷ものなり雨降出けれハ仕方なく室内に引入骨牌カルムを遊ぶものあり書を読者あり又昼寝する者もありけり霧深けれハ始終蒸氣笛を吹鳴し船の衝当りなき様用心したり正午には下の張出ありたり北緯四十二度二分西経六十二度四十九分里数二百七十二マイル細霧ハ始終降続時々ハ雨も降しか共昼の中ハ免角彼木切の遊をなし夜ハ煙草部屋に打寄雑談を始めるにミラと云ふスコットランドの菓子商人ハ干菓子ドライフルーツを諸人に振舞たり火の用心の為且は吸ぬ人の迷惑せぬ為部屋々々ヤ書院食堂杯にてハ煙草を吸事嚴禁にて甲板の上ならてハ煙草吞事成らず去共雨天の節ハ煙草吞者の込る故甲板の上に一室を設置之を煙草部屋と云ふ西洋の風俗にて婦人ハ煙草を吸ぬ故此部屋に女の来る事なく男同士の寄合所なり日本

にてハ他人ハ勿論母ヤ姉妹の居所にて小屁の話ヤ糞の談或ハ女郎芸者の咄杯する風俗なれ共西洋にてハ嚴敷て此類の穢なき事ヤ淫りかま敷事を婦人の前にて噺ハ甚た敷失礼なり只煙草部屋の寄合の如く男同士打集ひたる折ハ少し下貧掛りたる話も出る事あり寝る頃も霧未た晴やらぬ相図の蒸氣笛ハ絶す鳴り居れり二十日朝起たる時ハ霧晴たれ共空は矢張曇りて雨も降来ん模様なりし旅の恥はかき捨と云ふ風ハ西洋人中にも少しある事にて旅行中ハ平生遣ぬ事をもするなり此日賭事カサを始めけるに其仕方は加入の人々各六ペンス(十二錢ニ当ル英貨ナリ)を出し一二三四等の数の中一つを択ふ此一二三四の下にハ凡積りの里数を夫々記し置加入の時ハ里数を隠し一二三四丈を見せて其中一つを択取セ人数揃たる時に開きて誰は何里彼ハ何里と云ふ事を見せ正午の張出しと較へて其里数に合たる者か又ハ誰も当らぬ時ハ一番似寄た数を撰みたる者ノ出し合たる錢を取るなり朝飯の節ニウー。ヨルク府のテート同し飯台に座る人ハ榴柑、杏季、葡萄、桃、芭蕉の实一籠持出て振舞たり船中ハ菓物不足なれハ平生より二倍も甘く思はれし芭蕉の实ハ定て見られし事ある間し其形粗あきびと唱る菓物に似寄て長く黄色と紫掛りた赤色との二種ありて甚味美ものなり九州地方の芭蕉ハ実を結へ共小さくて食ふに足す小笠原島か何処かの実ハ大きくなると聞し事あるヤに寛ゆ南アメリカ其近辺なる西印度諸島天竺シヤムロ安南の諸国ハ此実を多く産出す此後シヤムロ国にある英領シンガポールにて現在芭蕉樹に着居たる実を見たり此日も輪投ヤ木切の遊ありけり正午にハ北緯四十三度三十四分西経五十六度五十八分里数二百

七十二マイルと張出したり又其側に於道化した口上書ヤ大勢の彈手謠手の名前を陳ねたる看札を掛けて今夜音楽会ある事を解たり彼ニウー。ヨルクの判事ハ里数当競への割前た連一シリリング(廿五錢に當る英貨)渡したり復も霧笛か鳴始り時々船の走りをも止て船と船と突当らぬ様に用心甚た堅固なるハ畢竟近き頃此社の持船アソコリヤ丸は他船と衝当り甚しく破損したる事ありたれハなるへし今日よりハ綱を張りて二等客か舳オビの甲板に來ぬ様したりウキルスと云ふロンドン人と熟意になりたるに其人告て云らくエデンバラ府よりロンドン迄通ふ鉄道三筋ありて孰れも里数に差たる違なし着したる時ハ荷物取扱方に頼み我荷物を荷部屋に運はせ置小使に頼み馬車一輛雇はせ乗れハ二シリリング(五十錢に當る英の銀貨)にて事済へしロンドン滞留中に一日午後に出掛てハイド。パークと云ふ公園地を見物すへし左すれハ大都の立派な方々が見らるゝ代言人の大社三四ヶあれハそれを見控訴院に往て論弁を聞へしオクスフォルド(有名の大府)に行ならハ片道か往返共テアムス江の河蒸氣船に乗ハよし且オクスフォルドにて或寺の音楽を聞へし大学校ハ当時休暇中なれハ誰そ友人の案内なくてハ見られましがグリニッチに往時ハ必ず満潮前に出掛へし在すれハ諸船渠に入たる所を見歸りにハ満潮に乗して諸船の出る所を見らるへし此船渠とハ川端より地面を掘割り川水を引て作りたる大堀にて諸商船々掛場なり此船掛り堀はテアムス河の岸に幾つともなくあるものなり晩飯後にハ張出しの如く音楽会か始り彈者謠者講釈師代るゝ聴聞衆を慰めけり是ハ日本にて申さは隠し芸の出し合とも云ふへし船

旅に限らず避暑所の如き多人数打寄る場所にてハ互の淋しさを慰る為に此の如き事を為るハ西洋人の常にて最面白き趣向なり日本にてこそ音楽ハ俗に流れ謠事の仲立となり果其道を学ふ人を行義なる者と嘲けれ西洋にてハ殊の外音楽を貴ひ随て音調も清く男女共に多少稽古して謠はぬ人彈ぬ人ハ珍ら數位なれハ彈謠ふ事ハ素より恥ならぬ而已ならず却て人に羨まれ音楽を知らぬ事をこそ恥とする故に孔子ハ西洋に參られたら嘸悦はれるならん去からに西洋人にハ多少芸のなき人ハ稀なり又講釈師とハ云たれ共日本の譚家の如きものならず自分にて作たる話をする事ならて本を上手に読或ハ暗んしたる詩人を巧に誦なり人を感しさせる位巧に読たり暗に繰返すハ実に一芸にて如何なる名家の著述本ても読方悪けれハ聽人感ヤす如何程名人の詩歌ヤ文迎も下手に繰返してハ面白からぬなり同じ為永春水の著作でも上手に読聞せらるれハ自分か読よりも感しか強く下手な読様されてハ唐人の寝語を聞に齊し近来ハ演台杯云ふ事流行出したれ共是迄ハ話し方ヤ読方をハ更に構はず下手な方ハ却て強大チヤイと云ふ風ありて譚家杯の芸をは甚く賤めたり錢を乞んか為に話すから譚家を卑しと云へ其芸に於てハ却て貴むへし巧に話し巧に読事を真逆恥辱とハ云れまし弁舌の健かなるは昔から人も誉たるにハ非ヤ然に弁舌の爽かになる稽古をセさりしハ教育の欠典ツグと申すをへし合衆国の小中学校にてハ嚴敷読方を教授し又何にまれ生徒の好な詩文を暗んしさせ教師の台に立同級の者共の方に向て其詩文を繰返さするなり斯して育らるゝ故読方ハ勿論話し方も自ら上手に成且大勢の前に出て読事ヤ物云ふ事に懊せぬ様

になるなり大試験の折生徒の父母親族朋友を招て見物さす事なれハ講堂にてハ狭過る故市中の大堂を借り夫所にて暗記の詩文を繰返さするに千余人の見物人にも愧せず十歳前後の児供に至まで滔々と述るハ実に感心なる事共なり一度其席に連りたる時右の有様を見て斯んな小供等にも劣るかと思はる事ありき

廿一日 霧笛を聞なから寢所を出て見れハ今朝ハ余程涼しく覺ゆる□寒暖計を見たるに六十二度なりしニウ、ヨルクを立し頃ハ七十度なりしか日々降て斯ハなりし海水の温度も初日ハ六十八度なりしか今日ハ五十四度迄降りたり朝飯後ハ一時間斗りも独にて甲板の上を散歩なしたるに霧深く長羽織（オーバル、コートと唱るもの）を着て丁度宜加減な涼しさなり此頃丁度北アメリカの英領ニウ、フンドランド沖の遠浅に来掛りたり此所ハ鱈の大漁場とて名高場所なり正午の張出ハ北緯四十五度五十五分西経五十一度十分里数二百七十五マイル此頃ハ霧霽たれ共猶涼し過て保養の為とて乗組たる肺病患者共ハ免角加減悪く夜分にハ咳励敷起りし人々もありたり執人に限らず厚き下着を用意したる分ハ可法者にてありき右之方に当り帆前船一艘見得たり渡海中は免角見る物少きか故に水と天ノ外何か眼に触る物あれハ乗客ハ我も／＼と見たかるものにて別て此度の如く霧に取巻れし時は偶に何か見得るも大に諸人の慰となるなり明晩ハ又音楽会の催しある筈なれハ謠者ヤ彈者の下稽古始りたれ共夫を聞も余り面白からぬ米人イートン氏著述の英国官吏採用論とも訳すへき本を読たり船中ハ免角退屈になり易きものから将棋、

かるた、双六、杯遊ひ道具ハ勿論相手なき節の用意に旅日記、道中案内、草々紙類銘々の好に随ひ持参すへし本ハ沢山読れるものならと何も持ぬハ亦不自由なり尤船中に文庫ありて多少本を貯置共読たい書物のある事稀なり但し本ハ上陸の後ハ邪魔になるもの故古本か板の悪い安本を求め着船の時ハ置捨て行様にするを上都合とす船の役人ハ尽くスコットランド人にて客中にも同国人四五人あり皆エギリス語を話セ共方言強ク儘解セぬ事ありしスコットランドと云ひアイルランドと云ひ元ハ孰れも独立国なりしかとエングランド（英国の原語）と合併せしより三国を合せて大ブリテン国と唱ひ住民ハ皆エングランド語即ちエギリス語を用る様になりしなり去共元ハ元故国々に依て方言ある事譬は同じ大日本の中に四国とか九州とか琉球又ハ蝦夷言葉あるか如く又大ブリテン人と云ハすしてスコットランド人アイルランド人と呼所謂ハ丁度同じ日本の民なれ共琉球人ヤ蝦夷人を日本人と唱ぬと同然なり同じスコットランド人にて七十歳前後と覺しき老人ありけるか貌は赤くして大きく賑やかにして人柄好様に見得骨格も面に準して大きく至て岩丈なる容体なり此人何時でも忙ハしけに歩行き只自分か人に後れて朝飯に来る時のミ少しも急ぐ気色なく緩／＼と歩み来るは例なり大方ハ年若な者共と一所に甲板に出て居今ハ昔の長羽織と成果たる蝙蝠合羽を着両羽根にて胸を掩ひながら色々若者共の遊事を見物するを楽みとし時々ハ孫位な子供等に責立られて其者共の遊相手と成て共に悦滅多に口を開ね共云へハ必ず中り然も於道化な事を云ふて諸人を笑はする事度々にて人々も此人を祖父様の如く見

上げ皆々珍重セリ彼ニウ、ヨルク府の判事ハ又身の丈矮くて肉肥り髪も目玉も日本人の様に黒く眼ハ油眼とやらにてきら／＼光り太黒様の如く何時でも莞爾／＼何か悪さをするか瓢んけた事を云出すそふな貌をして居故此人に逢微笑てまぬ者としてハなし総て遊事杯を弄出すハ此人にてそある此日船も太分揺たれ共乗客も今ハ慣たるものと見得船酔する人もなかりし

廿二日 目覚に初めて耳に入し響ハ不祥なる霧笛の音にてそありける食事部屋に行し頃ハ早知セの鈴鳴りて後半時間も立たりしに座り居人甚少なし諸人も初め程早起をセぬ様に成たり甲板に上りて見れハ役人出来り今朝彼名にしおう冰山を見しと云其話を聞に四時とも思しき頃空気も水も急に温度を減し水夫かぶる／＼振ひ出し是ハ何ても此辺に氷か流れ居に違ひないと云ふ故四方を見廻したれハ果して三里程右の方に当り高さ三十間余（水下ハ七十間近もあるへしと云ふ）長さ四十間計の氷塊かきら／＼と輝き居れりと云ふ北氷洋の近海も冬ハ閉氷りて暖氣催すに随ひ其氷ハ解摧とて南の方エと流れ出る其勢ハ中々強きものにて船之に行当るか横を打るゝ時ハ儘破船すると云ふ霧の深き日ヤ晴夜杯ハ云ふも更なり物の見分の付折も不図此氷に出逢ふ事ある由にて始終海水を汲上夫に寒暖計を入れて水の温度を計りもし温度頗かに減する事あれハ冰山の近くに流れ居るを知へく其時ハ船を止め様子を伺ひ氷の所在知れハ船の向を変船して災難を避る工面をするなり先此度ハ斯る難を逃れ諸人大に安心セリ正午の張出ハ左の如し北緯四十七度五十八分西経四十五度八分里数二百八十里昨年午後暫時の間帆を挙て走りたる為

かり数ハ常より多かりし出帆以来風は東又ハ東北風なれハ常に逆風なり今日ハ西と変りたれ共余り弱過て帆を孕する足らず此三百間ハ絶て日を見し事なし然るに正午に日を見て量らねは能度数も分らず随て里数も駭と勘定されぬものゝ由尤も船より一分間綱を流し其流れ様の遅速に依り船の進みの遅速を測るるれ共大凡の勘定のみならてハ出来ぬといへハ此頃の張出ハ大凡の度ヤ里数なるならん霧ハ晴たれとも矢張曇りて雲霧やらす湿氣ありて冷かなれハ運動をセはやと歩行出したるに廿歳前後のエギリス人も来り連合て散歩しなから話したり同人申しけるハ自分ハ貴国人谷口氏と交りし事あり当時はオクスフォード大学校（世界に名高きエギリスの大学校なり）にて修業するか夏の休暇中鳥渡アメリカに渡り所々方々見物なし今其帰るものなりと然らハアメリカの大学校をも見しならんエギリスのもの較へて如何ある哉と問たれハ左ればなりアメリカの大学校ハ建物云ふ時ハエギリスの小中学校の如く逆も大学と云ふへき程立派ならず又其生徒を見るに其動作や学校の彼等を扱ふ様子ハ頓とエギリスの中学生徒の様あり大学生の如く見受さりしと答たり此人の見込ハ愈正きヤ否ヤエギリス大学生の様子をかねは判断を付られぬかエギリス人のアメリカを悪様に云なすは常にもあり両国の大学生徒に右程の違あるましも思はる夫より究理学ヤ天文学杯の談を了り宗旨の題に移たるに同人の説にハ不遠万事理学に由世の中と成夫て何事も結構に参るへしキリスト教即ち邪蘇宗ハ最早流行盛りを過て時代にハ相応せず宗教てふものハ世間普通の智恵德行に勝れたる所を教え骨を折心を砕かねハ

もスコットランドハ世界第一の如く話す故なり（以下欠）

中々達されぬ程の的なるへきにキリスト教にハ馬鹿／＼敷事多くて斯るのと成へきハ思も寄す去込外に望通りの教なけれハ我々ハ誠につらい世に住者かなしと歎きけり是ハ一段面白き事を云ふ人そヤと思ひ扱／＼エギリス人ハフランス人やアメリカ人と違ひ古風旧例ハ容易と変る事を好まず耳新しき事共をハ中々に信仰セぬ性質にてオクスフォード大学校の人達ハエギリス人中にも別て古を守る儀と存し居たるに今の如き説を唱らるゝは実に案外の至なりと申したれハ仰の如くオクスフォードの教師ヤ其他高位に居人達ハ皆直直エギリス国教（キリスト教の一派なり）を信仰する者共のミにて自分同様の了見を持たる人々ハ口を開事叶はねハ止を得ず黙りて居なりと答たり夫より此人はドレーバル氏著述の智識開進論とてヨウロッパにて今日迄段々智恵の増りたる由来を説きたる本を読めと教えけれハ返礼ながらタイラル氏の温故論連何国に限らず総て上古の有様を書集めたる書物にて殊に宗旨の由来を委く論しある事なれハ読□□□□悟る所あらんと云聞セたりエギリス人の書生に逢たるハ比か始てなるに中々開けた事を云ふ人なりけれハ最面白かりしまゝ一時間余も往つ戻りつ一所に散歩なしたり時波ハ段々荒くなり初め船ハ随て揺り出したるにて一人の客ハ病氣となりたり又天氣ハ涼しく湿氣励しけれハ肺病の患者一人船付の医者指図に依りて部屋に引込みたり然るに此二人ハ四人組歌ひ者の中の人々なれハ彼者共引入たる為今晚の音楽会ハ明晩まで延引とハなれり別に楽しみもなけれハ又ハットン氏と同道にて永らく散歩したり此人をは諸人皆「スコットランド人」と呼から此人ハ何事